Shimada 2021 1 No.271
City Public Relations 広報しまだ

島田人 Story

Shimadajin File #109

市町対抗駅伝島田市チームの新監督
神谷義弘（かみやよしひろ）さん（中央町）

選手と共に、島田市ならではのチームを作りたい――

12月に開催された「第21回しずおか市町対抗駅伝競争大会」から、島田市チームの監督を務める神谷さん。自身もランナーであり、これまでの人生経験を生かした手腕で、チームを導きます。

【何事もまずは挑戦】

中学校時代から陸上競技を続ける神谷さんは、社会人経験が、自身の陸上人生に強く影響を与えたと話します。

「社会人2年目で配属された、会社の生産技術を担う部署の上司から、経験することの大切さを学びました。その部署では、会社が製造する機械を構成する部品の加工技術などを担当しました。上司からは、多くの仕事を任されましたね。まずは同僚と、自分たちでどうすべきか話し合い、実行してみます。行き詰まったり困ったりしたときは、上司が手を差し伸べてくれました。こうした経験もあり、何事もまずはやってみようという気概と、チームワークの大切さを学びました。陸上では、大会への出場や日頃の練習に、チャレンジ精神を持って取り組んでいます」

【団体戦としての陸上競技】

今年、市駅伝実行委員会などからの推薦で、監督に就任した神谷さん。指導者の目線で大会を振り返りながら、駅伝の魅力を再認識しました。

「陸上は、基本的に個人競技ですが、駅伝はチーム戦。1本のタスキを、チームのみんなでつなぎ、ゴールを目指します。2区以降は、走者を取り巻く状況が毎回異なり、タイムや順位、沿道の雰囲気などで、成績がまるで変わってきます。監督として全体を見渡す中で、奥深い競技だと改めて実感しました。結果は、市の部9位入賞。大会後に、みんなで走り抜いた喜びや、本番までの苦労を分かち合えるのも、大きな魅力です」

【大会での世代間交流】

神谷さんは、しずおか市町対抗駅伝を通して、チームの仲間たちに積極的に交流してほしいと話します。

「地域の幅広い年代の人が、同じ目標を持って走るこの大会は、世代間交流ができる貴重な機会。そこで合同練習は、選手の健康を第一に、週3回行いました。県内において、これほど合同練習日を設けるチームは珍しいそうです。選手は、お互いだけでなく、駅伝スタッフとも触れ合う機会が多く、自然と仲間意識が生まれていました。こうした積み重ねで、一人一人がこのまちの代表だと自覚し、一体感のあるチームが作られるのだと思います。期間中、中学生が高校生に、高校生が社会人に、練習内容や食事、身体ケアやストレッチなどを質問していました。多くのことを学び、経験として吸収し、一段と大きく成長してほしいですね」

チャレンジ精神とチームワークの大切さを伝える神谷さんは、これまでの経験を基に選手たちを導き、チームの力を引き出していきます。

第21回大会の第1区を走る島田市代表選手（左）

発行／編集 島田市市長戦略部広報課
〒427-8501 静岡県島田市中央町1番の1
https://www.city.shimada.shizuoka.jp
0547-36-7118

ミックス紙 FSC FSC® C018109